1．現状と課題

【鹿島区の現状】

・鹿島区市街地では人口減少や少子高齢化が進行し、店舗・事業所も減少しており、高校卒業後は進学や就職などで地域外へ出て行ってしまい、鹿島には戻ってこないことが多いのが現状です。鹿島区の現在の人口構成からも、若い世代の地域外への流出傾向を読み取ることができます。
・本市が2024年に行った市民意識調査では、前回調査(2022年)に比べ「今後も南相馬市で暮らしたい」という意向について鹿島区においては8.7ポイントの減となっており、地域への愛着低下がうかがえます。
・これらの要因として、まちなかにおいて地域の住民等が気軽に集まったり、日常的に出会う場所が減少していることやイベント等の減少、住民同士の交流の減少が考えられます。

【鹿島区の課題】

地域への愛着を醸成する機会をつくることが必要

地域の活力を維持していくためには、定住を促進することが必要です。若い世代の定住には、まず、地域に対する愛着醸成が必要であり、地域住民に、鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を知ってもらう多様な機会をつくり、市外に出ても、地域に対する魅力を感じ続けてもらえるよう働きかけることが重要です。また、鹿島区を持続可能な地域とするためには、移住者の誘導も必要です。

【鹿島駅舎の現状】

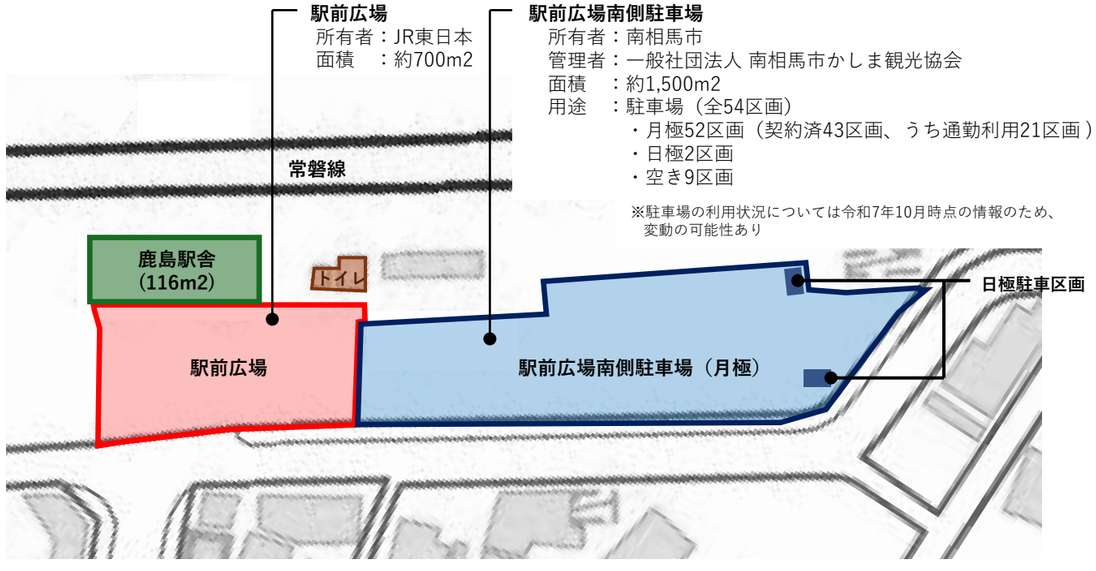
・鹿島駅舎は築127年と福島県内の常磐線の駅舎で最も古く、歴史的な価値を有しています。
・鹿島区内唯一の鉄道駅であり、高校がない鹿島区においては、通学のために大部分の地域住民が毎日利用していた思い入れの強い場所です。これらのことから、JR東日本による駅舎の建替えに対して現駅舎の存続を求める声が上がりました。
・鹿島区には高校が無いことから、地元の高校生の大半が通学のため日常的に利用する場です。
・高校生からは、放課後は学校のある地域で過ごすことが多いとの声が聞かれました。現在は駅員のいない無人駅であることから、不安を覚えるとの声もあります。

【鹿島駅舎の課題】

「通り過ぎる駅舎」から「集える駅舎」への転換

現在の駅舎は鉄道利用者が利用するための施設で、十分な広さがないことから、駅舎利用者が足を止めて集うような滞留の場として機能していません。このため、現駅舎の保存活用にあたっては、現在利用されていないスペースの利活用方法を検討する必要があります。利活用の検討にあたっては、より多くの地域住民が駅舎を利用したくなる仕掛けが必要です。また、駅舎のコアユーザーである高校生の居場所としての検討が必要です。

■鹿島駅及び駅周辺の現状



2．事業目的

鹿島で育まれてきた多様な魅力を通じた交流により、郷土への愛着を醸成する場づくり

鹿島区の課題である「地域への愛着を醸成する機会」をつくるうえで、地域住民に馴染みのある鹿島駅舎を活用することは有用だと考えています。一方で、現在の鹿島駅舎はそういった場とするうえで課題を抱えていることから、本事業では鹿島区及び鹿島駅舎の課題にアプローチした取り組みを行います。

まず、若い世代を中心とした地域住民が地元への愛着を持ちにくい背景には、イベントや交流機会の減少により、地域とのつながりを得る機会が失われていることがあげられます。住民の定着を促進するためには、地域に対する愛着の醸成が不可欠です。そこで、歴史的な価値を有し、多くの住民が深い思い入れを持つ「鹿島駅舎」を、郷土への愛着を育む場として活用します。本事業では、この駅舎において鹿島の「まち」「ひと」「自然」の魅力を再認識できる多様な機会を創出し、それらを通じた交流によって地域への愛着を醸成する場づくりを行います。

鹿島駅舎は地元の高校生の多くが通学のために日常的に利用する場です。地域住民間の交流の場において若い世代の主体的な利用を促すことは大きな課題となりますが、本事業では「高校生が毎日必ず訪れる」という利点を活かします。高校生が日常的に利用する場と地域の人々が活動する場を重ね合わせることにより、特別なイベントとしてではなく自然な形で、多様な世代の地域住民間の接点を創出し、交流を促進します。

鹿島らしさが随所に息づく場となる駅舎は、地域外からの来訪意欲を喚起します。移住検討者を含む地域外からの来訪者（以下、来訪者）が駅舎で展開される地域の活動やそこに集う地域住民との交流を通じて、鹿島をより深く知り、繰り返し訪れ、移住意欲を高めることにつながります。そして、地域住民が郷土への愛着を醸成するうえで、来訪者との交流は重要な役割を担います。地域住民にとって、客観的な視点をもつ来訪者との対話は見慣れた日常を鹿島の魅力として再認識するきっかけとなることから、このような交流を経て鹿島の魅力をより深く知ることにより郷土への愛着を醸成し、定住意欲の向上へとつなげます。

3．事業コンセプト及び施設計画

[事業コンセプト①] 鹿島の魅力を見つめなおす場所とします

鹿島の魅力として、歴史や文化を表現する相馬野馬追などの伝統行事や祭礼行事、豊かな自然である阿武隈山系の山並みや河川、海岸の風景、想いや温かさを感じる生業に関わる手しごとや地域住民による多様な活動などがあげられます。 ただ、地元で暮らしているとそれらは日常の一部となり、改めてその価値に気づくことは少ないものであり、知るきっかけがないと来訪者が関心を寄せることもありません。　地域住民が駅舎を利用することで地元のことを再認識するとともに、来訪者も鹿島の魅力を体感する場とします。



■外観

【特徴①】大きな開口を設け、外から施設内の様子を見えやすくすることで、中の活動の様子を知り関心を抱くきっかけにつなげます。

【特徴②】地域住民に馴染みがあり、歴史的な価値を持つ鹿島駅の雰囲気を継承します。相馬野馬追の紋様をデザインとして取り入れるなど、鹿島の魅力をかたちづくっている歴史や文化を感じられる外観とします。



■内観

【特徴①】鹿島区で行われている活動に由縁のある素材を内装材として用い、鹿島に関わる人々の暮らし、活動が感じられるよう演出します。

【特徴②】相馬支援学校をはじめとした、鹿島のこどもたちが持つ豊かな感性から生まれた作品の展示を積極的に行います。

【特徴③】大きな開口を通して、鹿島の魅力を形づくる山並みや夕陽の風景を再認識できる機会を創出します。

■施設内での取組

鹿島区の魅力である「地域住民による多様な活動」を鹿島駅舎で行い、駅舎を訪れた人の目に触れることをきっかけに活動の広がりに繋げていきます。駅舎内では地域住民の活動の発表やイベントのみならず、発表に至るまでの過程である日常的な作業や練習なども施設内で行うことにより、交流のきっかけとします。　鹿島区を中心に活動している個人・団体へのヒアリング等を実施し、絵てがみ教室、高校生向けキャリアワークショップ、ミニライブの開催等の活動を想定しています。

[事業コンセプト②]鹿島の居場所とします

現在の駅舎の主な利用者層である高校生へのヒアリングを行ったところ、鹿島区内で過ごせる場が極めて限られており、自宅以外に自分の居場所を見出しにくい現状が浮かび上がりました。このため、高校のある小高区や原町区、市外で友人達と過ごす時間が長くなるのが現状です。鹿島区で過ごす時間が増えてこそ鹿島での思い出が増え、地元への愛着を育むことにつながると考え、鹿島における居場所づくりを行います。また、来訪者も駅舎を鹿島における居場所とし、そこで過ごすことにより地域の日常を知ることができる場とします。

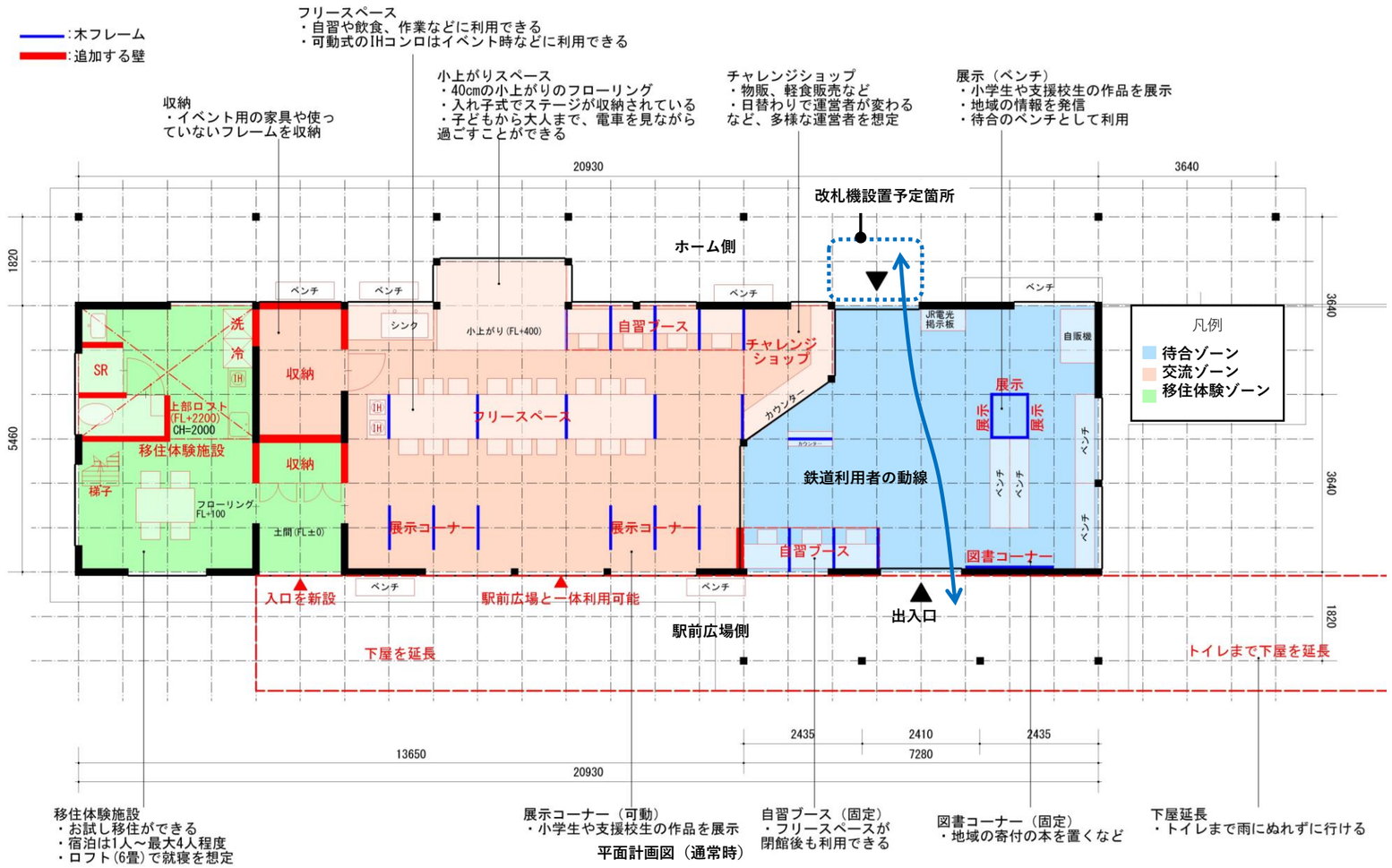
■市民ワークショップでの意見

市民ワークショップ（全３回）及び高校生ワークショップ（全１回）にて駅舎の利用方法について意見出しを行い、意見を分析することで以下の考え方が必要であることが判明しました。これらの内容を平面計画に反映しています。

・高校生や地域住民が居場所として利用できることが重要であることが伺い知れました。居場所としての利用に対しては、談話、休憩、自習、読書等様々なニーズがあったため、可変式の木フレームを使うことで各利用者にとって居心地の良い空間を作れるようにします。

・「外から施設内の様子が見えること」といった施設のハード面での提案や、「イベント等の実施」といったソフト面での提案もワークショップにて多く聞かれました。また、平日は居場所利用が多く、休日はイベント実施がしやすいといった意見から、平日と休日で施設内のレイアウトを変える等、多様な活動に対応した計画とします。

・鉄道利用者の動線を考慮すると、現在、鉄道利用者の待合として利用されているスペースは、改修後も同様の役割が期待され、地域住民の日常的に利用したい機能は交流ゾーン付近に配置する声が集まりました。このため、駅前広場から交流ゾーンに直接来場できることや駅前広場との一体利用を実現するため、出入口を新設します。

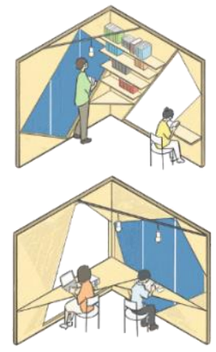


平面計画図（通常時）

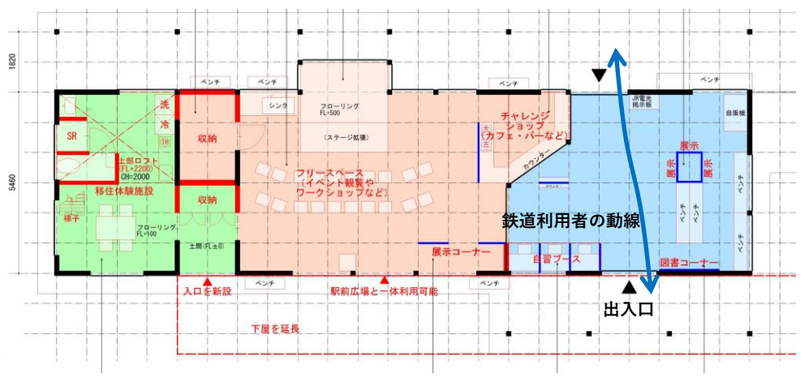
■木フレームの活用

多様な利用者のニーズにあわせた自由な使い方を実現するための手法として、木フレームを活用します。木フレームは地域産材を活用し、住民が染めた布などの素材を利用して彩ります。

木フレームは可変性・可動式であり、温かみのある雰囲気で空間を緩やかに仕切り、利用者に居心地の良い居場所をつくりだします。木フレームを組み合わせることで、様々な居場所をつくることが可能です。



木フレーム活用イメージ



平面計画図（イベント時）

移住体験ゾーン（約24㎡）

- 移住希望者が宿泊可能なゾーンとします。
- ホーム側に窓を設けるなど、駅舎という特別な環境を活かし楽しみながら滞在ができる空間づくりを行います。
- 交流ゾーンの活用を促進し、滞在中は容易に地域住民と交流できるようにします。

交流ゾーン（約56㎡）

- 地域住民の日常的な居場所として、またイベントやサークル活動等の実施など、多様な用途での利活用を可能とします。
- 鉄道利用者の多い時間帯は、待合ゾーンと連携して、待合としての利用も可能にします。
- イベント時には駅前広場とつながり、一体的に利用できるようにします。

待合ゾーン（約36㎡）

- 鉄道利用者の待合のためのゾーンとして、待合機能を充実させます。
- 24時間開放（施錠しない）エリアとします。
- 駅舎利用者に向けて情報発信を行います。
- 展示スペースを充実させ、鹿島の歴史、鹿島区内の取り組みや情報発信を行う場として活用します。

[事業コンセプト③]交流が広がる場所とします

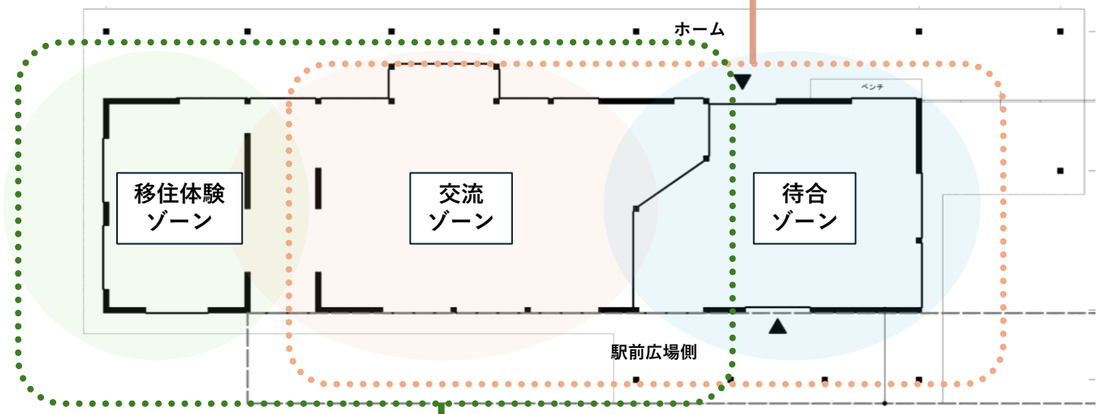
現在鹿島区内では、かしま交流センターや鹿島生涯学習センターがサークル活動や教室等の活動を行う場として活用されています。これらの場所は閉じられた空間のため、他者の目に触れる機会も無く、活動の広がりが期待出来ない状況にあります。今回、駅舎を地域住民が日常的に利用できる場とすることにより、この場で行われる活動に触れ、参加しやすい環境を整えます。また、人の往来が多いという駅舎ならではの特長を活かし、活動を通じた交流の活発化も期待されます。

駅舎内で行われる「事業コンセプト①鹿島の魅力を見つめなおす」取組は、地域住民と来訪者のコミュニケーションツールとしての役割を果たし、両者の間に自然な交流をもたらします。こうした交流を通じ、地域外からの客観的な視点で鹿島の魅力についての意見を聞くことは、地域住民にとって、自分たちが暮らす地域の価値を再認識し、愛着を持つきっかけとなります。また来訪者にとっては、鹿島のことをより深く知り、関わるきっかけとなります。

■駅舎内の各ゾーンを隣り合わせるねらい

交流ゾーン×待合ゾーン

「高校生を中心とした鉄道利用者が滞留する場」と「市民活動の場」を隣り合わせることで、多世代が日常的に接点を持ち、交流を持つ機会が生まれます。



交流ゾーン×移住体験ゾーン

駅舎のコンセプトである「鹿島の魅力」がコミュニケーションツールとなり、移住検討者は鹿島への関心を高め、地域住民は新たな視点での意見を聞くことで地元の魅力を再認識することにつなげます。

■地域の声

地域で活動する団体や個人を対象に、各々が取り組んでいる活動を行う場所としての活用可能性についてヒアリングを実施しました。代表的な内容は以下のとおりです。

関係者以外の目が届かない空間で活動しており、活動の広がりを感じられない。開かれた場で活動することで、日常的な取組自体が情報発信となり、さらなる活動の活発化が期待できる。

活動の発表だけでなく、日常的な取組（作業など）をこの場で行うことで、地域とのつながりを得ることが期待できる。

開かれた場である駅舎を日常的な取組を行う場として活用し、
地域住民や来訪者の交流を広げることにつなげます。

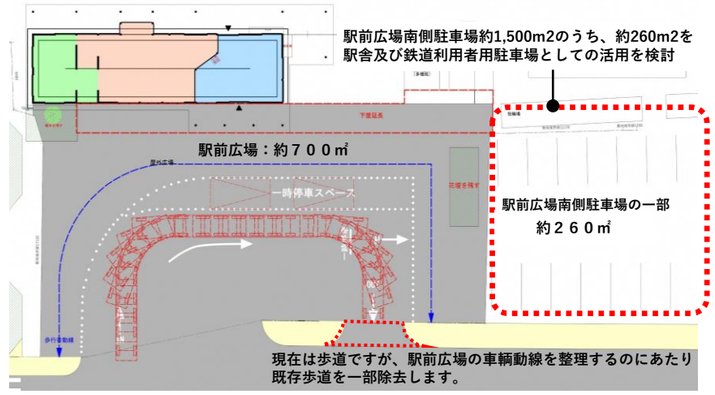
4．駅舎周辺の考え方

駅舎の改修に合わせて、駅前広場や駐車場等も一体的に整備します。駅前広場は、歩行者・自動車の動線を整理し、送迎等の際に安全で使いやすい駅前広場とします。鉄道や施設利用者の駐車場など、駅舎周辺の敷地も含めて必要な機能を確保します。既存トイレは駅舎から庇を連続させるなど、駅舎利用者が利用しやすい動線を確保します。

現在、駅前広場南側の既存駐車場の一部区画を駅舎利用者及び鉄道利用者用の駐車場として活用することを検討しており、管理者であるかしま観光協会と協議を行っています。



駅前広場イメージ



駅前広場配置計画図

5．運営方法

改修後の駅舎を地域に身近な使いやすい施設とし、地域団体や民間事業者のノウハウを生かすことで、運営プログラムを充実させ、収益性を含めて柔軟な運営を目指します。地域の多様なプレイヤーの参画を募り、地域に寄り添った運営を行っていくため、地域おこし協力隊制度の活用や指定管理者制度など、意欲的な管理・運営主体が望まれます。本計画では、以下の２つの方向性を示します。令和８年度以降、関係者等との協議等を行いながら、事業手法を決定します。

運営手法案１　市直営（地域おこし協力隊制度も活用）

施設の管理・運営の担い手として地域おこし協力隊を募集します。地域おこし協力隊を中心として施設を運営しながら、指定管理者としての受け皿団体の育成を進め、3年後の移行を目指していきます。

運営手法案２　指定管理者制度の活用

地域団体等が主体となり、指定管理者として管理・運営を行います。今後、鹿島商工会等の地元関係者との協議を行いながら、地域の受け皿の可能性を検討します。なお、指定管理者制度を活用する場合も、担い手と十分な協議等を行い、施設の目的や運営方針を共有し、管理・運営に反映させます。

6．建設費・維持管理費（想定）

①建設費

項目	金額（千円）	備考
調査・設計監理費	29,000	
工事費	146,000	周辺部外構込み
備品購入費	5,500	
合　計	180,500	

※工事費は既存躯体調査の結果や今後の物価上昇の影響により変動の可能性あり。
※財源として、第二世代交付金（内閣府）補助率1/2以内を想定。

②維持管理費

項目	金額（千円）
光熱水費（上下水道料金、電気料金など）	1,450
役務費（清掃作業費、インターネット使用料など）	340
施設管理費（消防用設備点検費、警備保障など）	220
移住体験ゾーン管理費（光熱水費、クリーニング費など）	594
人件費（地域おこし協力隊）	5,618
合　計	8,222

7．事業スケジュール

	R７年度（2025）	R８年度（2026）	R９年度（2027）	R10年度（2028）
主なイベント			●駅舎譲渡に係る協定締結 ●駅舎譲渡契約締結	オープン
南相馬市	整備計画策定	基本・実施設計	改修工事	
JR東日本			支障移転	

※表中の支障移転は、今般の駅舎譲渡と改修にあたり必要とされるSuica改札機をはじめとしたJR東日本が所有する資産の移転作業を行うもの。

資料４－２

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画について

市では、「鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（令和８年３月策定)」の策定に当たり、当該整備計画（素案）について、次のとおり地域協議会への報告及びパブリックコメント手続を実施しました。

１　地域協議会への報告

地域協議会への提出案件の基準に基づき報告しました。

（１）報告事項

鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）に係るパブリックコメント手続を実施する件

（２）報告日時

① 鹿島区 令和８年２月１７日（火）１３:３０～
② 小高区　　〃 ２月１８日（水）１３:３０～
③ 原町区　　〃 ２月１９日（木）１０:００～

（３）意見等総数

１４件

２　パブリックコメント手続

南相馬市パブリックコメント手続条例に基づき、以下のとおりパブリックコメント手続を実施しました。

（１）実施期間

令和８年２月１日（日）～２月２０日（金） 計２０日間

（２）意見等総数

２８件

３　意見等の対応について

内容を精査した結果、整備計画の一部文言の修正を行いました。

【主な意見と対応方針】

（詳細は資料４－３「パブリックコメント等意見等集約表（令和８年３月２７日（金）時点)」のとおりです）

項目	主な意見	対応方針
歴史的価値の保存・継承 （2件）	・鹿島駅駅舎の歴史的価値を継承する考え方に対し、具体的取組の提案	・既存駅舎の意匠や部材を確認し、それらを参考に設計を進めます（計画書（本編）P20,23）。 ・鹿島の歴史や文化が感じられる施設計画を行います（計画書（本編）P20,23）。
定住・移住施策 （3件）	・空き地、空き家関連パンフレットの設置、市の移住施策との連携など	・ミライエとの連携を図ります。 ・既存施策との連携を図り、本事業の移住施策の効果を高めます（計画書（本編）P27,44）。

駅舎の利活用・交流促進 （14件）	・「地域資源の発信拠点」としての活用への期待 →観光マップ、作品展示、地域探索など ・「地域の人が活動し交流する場」としての活用への期待 →軽トラ市、チャレンジショップなど	・地域資源や地域住民の活動といった鹿島の魅力の再認識につながる内観・外観計画や取組の企画を進めます（計画書（本編）P16,17,20,23,26）。 ・地域住民や団体などが得意分野でアイディアを活かして参加できるような運営のあり方について今後検討を進めます（計画書（本編）P45,46）。
高校生・若者の居場所づくり （4件）	・高校生の居場所不足や駅舎での学習環境に対する懸念、その解消を求める施設計画と取組の提案	・自習スペース、フリースペースなど、高校生をはじめとした若者の居場所となる場づくりを行います（計画（本編）P25,26,33,34）。
駅舎周辺の考え方 （5件）	・送迎車の利便性及び安全性の確保、施設利用者用駐車場の確保、駐輪場の防犯対策など	・駅前広場のロータリー化及び歩車動線分離により安全性を確保します。 ・駐車場確保に当たっては、駅前広場南側の既存駐車場の活用に向け、今後も管理者と協議を行います（計画書（本編）P43）。 ・駐輪場の防犯対策として、防犯カメラを設置しました（令和8年４月９日（木））。
管理運営方針 （6件）	・施設内に常に人が居る状態をつくることが安心感につながり、施設の利活用促進において大事な視点である。 ・持続的な管理運営の実現には、地域住民や地元関連団体と協働する必要がある。 ・施設運営に地域住民が参加することが望ましいと考えるが、その役割を地域おこし協力隊の直営として一任するのは事業の方向性として合わないのでは。	・地域住民の施設利用を通して、多様な方々が日常的にそれぞれの形で施設運営に関わる持続的な関係性を作り、施設に人がいる状況を増やしていきます（計画（本編）P45，46）。 ・施設供用前から地元関係団体を中心とした地域住民が施設運営に参画する体制づくりを行っていき、施設を管理する受け皿団体の組成を進めます（計画（本編）P45，46）。 ・施設供用開始時は、地域おこし協力隊員を雇用し、市の直営としてスタートする予定です（計画書（本編）P46）。

資料４－２

【当該整備計画の修正箇所】

原町区地域協議会において、「本事業において施設運営に地域住民が参加することが望ましいと考えるが、その役割を地域おこし協力隊に一任するのは事業の方向性として合わないのでは」というご意見がありました。

市として、このような意図はないものの、当該ご意見を踏まえ、誤解を招くおそれがあることから、次のとおり一部計画内容を修正しました（資料４－１：Ｐ３）。

修正前）　「運営手法案１　地域おこし協力隊制度の活用（直営）」

修正後）　「運営手法案１　**市直営（地域おこし協力隊制度も活用）」**

４　今後の主な予定

（１）令和８年６月　補正予算要求（基本・実施設計業務委託）
（２）令和８年８月　基本・実施設計業務着手（予定）
（３）令和９年３月　基本・実施設計業務完了（予定）

以上

パブリックコメント等意見等集約表

１．意見等を求めた事項：「鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）」について

２．意見等の募集期間：令和８年２月１日（日）から令和８年２月２０日（金）

３．意見等総数：42件（パブリックコメント28件、地域協議会14件）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
歴史的価値の保存・継承	1	パブリックコメント	『かしままち駅舎通信』vol.7によれば、「鹿島駅舎は築127年と福島県内の常磐線の駅舎で最も古く、歴史的な価値を有しています」とあり、日本鉄道線路の原ノ町～中村間が開通した明治31年（1898）４月３日から換算してのことと思います。鹿島駅は南相馬市だけでなく、常磐線沿線地域の近代史を物語る歴史的・文化遺産です。近代日本が発展していく中、常磐線は常磐炭鉱の石炭や阿武隈高地から産出される森林資源（木材・薪炭）などを東京圏に輸送し、北関東・東北から輩出された多くの人材を東京圏に送り出し、電力を供給してきました。その役割を明治時代から見守ってきた鹿島駅の歴史的価値は非常に高いと思います。この文化資源を大規模に改変して現代的な建物にしてしまうのはもったいないことです。鹿島駅近辺では、磐城太田駅・桃内駅なども歴史的な建築でしたが、現代的なハコ形のウツワになってしまったことからも、鹿島駅の歴史的価値は高まっていると思います。 鹿島駅は前述の駅舎に比べて非常に小さな駅舎で、現在は外壁・内壁ともに現代の建材で覆われているため、明治時代の歴史的な景観を感じにくいところはあります。 しかし、駅舎の大規模改修前または天井材・壁材をはがした際に近代建築の専門家に調査を依頼し、本来の建築構造・建材を調査し、本来の姿に戻してみればその魅力がよみがえるのではないでしょうか。 鹿島駅は地方の小さな駅舎なりの特色を生かしていけば、鹿島の人々の「地域への愛着を醸成する」ことにつながるのではないでしょうか。また、訪れる鉄道ファンが生まれ、ネットなどから全国・世界へ情報発信されて、来訪者や移住者へとつながっていくことも考えられます。	意見	説明	設計段階においては、天井材や壁材など状況に応じて調査を行うことで、既存駅舎の意匠や構造、使用されている部材等を確認する予定です。この調査で明らかになった既存駅舎の部材や構造を、新たな意匠の一部として見せる、既存駅舎の部材が持つ意匠を参考に改修後の意匠を検討するなど、駅舎が持つ歴史的価値を尊重した改修を進めていく考えです。 市としても、駅舎が持つ歴史的背景は鹿島の魅力を形づくるものであると捉えておりますので、そういった場づくりを行うことで、市民の皆様が地域の魅力を再認識し、愛着を深める貴重な機会になると考えております。また、そうした地域の魅力を感じられる場とすることで、地域外からの来訪意欲を喚起し、移住者の増加につなげていきたい考えです。
歴史的価値の保存・継承	2	パブリックコメント	整備計画の「外観イメージ」「内観イメージ」パースを見ると、大きな開口を設け、庇でトイレとつなぐとのこと。前述のように、鹿島駅の歴史的・文化的価値を考えると、本来の姿を大きく破壊することになります。防犯等の観点からオープンにしたいということと思いますが、ＪＲ東日本水戸支社に駅舎設計図・古写真等の資料調査を依頼するほか、以下を提案します。 （1）鹿島駅開業当時の姿に再現する 近代建築専門家の調査をもとに、駅舎を復元・保存する。 （2）鹿島駅開業当時の駅舎の模型を作る 近代建築専門家の調査をもとに精密な建築模型を作り、展示ケースに入れて交流ゾーンに展示する。 （3）鹿島駅建設時の駅舎の設計図を作る 近代建築専門家の調査をもとに設計図を作り、交流ゾーンに展示する。 （4）看板の図を変える 旧鹿島町時代、『万葉集』に詠まれた「真野の萱原」が鹿島の真野に比定されていることから、「万葉の里かしま」というキャッチフレーズを町の広報誌はじめ文化財案内看板や標柱、町の地場産品等に謳い、多くの鹿島町民がアイデンティティとして意識していました。 仮に駅舎を改変するとしても、看板は野馬追の差旗図案ではなく、「万葉姫」等の「万葉の里」をイメージさせるものにしてほしい。野馬追をイメージさせるデザインは原ノ町駅や相馬駅にもあり、二番煎じ的になってしまう。鹿島らしいデザインを用いてほしい。市民ワークショップに関わった若い市民や市職員は、南相馬市合併前の鹿島のイメージキャラクター「万葉姫」を知らない人が多いと思われます。ましてや、よその土地のコンサル会社が関わっていたら、なおさら知らないと思います。 近代建築専門家の調査をもとに設計図を作り、交流ゾーンに展示する。	意見	説明	市といたしましても、福島県内の常磐線で最も古い鹿島駅舎の歴史的価値について認識しております。今後の設計段階において、可能な限り既存駅舎の元の意匠や素材、構造等を確認・把握し、それらを参考にしながら設計を進めていく考えです。あわせて、改修後の施設において駅舎の歴史に関する資料を展示する際には、ご提案いただいた模型や設計図の展示、鹿島らしいデザインの使用につきまして、参考にさせていただきます。 一方で、ご意見をいただきました大きな開口や屋外トイレまでの庇の設置については、鉄道利用者・地域住民・来訪者といった施設利用者が、快適に利用できることや鹿島の魅力を通じた交流が広がる場とするために想定しているものです。駅舎の歴史的価値の継承と、現在の利用者に求められる利便性や安全性のバランスを両立を図りながら、事業を進めてまいります。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
定住・移住施策	3	原町区地域協議会	本事業は地域住民の定住施策と移住施策、どちらに比重を置いているのか。	質問	説明	本事業においては、特に地域住民の定住施策の推進に重きを置いています。本事業では、定住につながるような地域への愛着が生まれる取組が大切であると捉え、鹿島の「まち」「ひと」「自然」という魅力を再認識しそれらを通じた交流が必要だと考えています。そのために、施設内において地域住民による多様な活動の実施や作品展示をはじめとした、普段見過ごされがちな鹿島の魅力を多面的に知り、そこに参加することができる場づくりを目指しています。 このような鹿島らしさが息づく場づくりを行うことは、地域外からの来訪意欲を喚起することにつながると考えています。さらに、駅舎利用を通じて地域住民と自然にコミュニケーションをとる機会を得ることで地域の様子を知り、地域とのつながりを深め、移住意欲を高めることにつなげたい考えです。
定住・移住施策	4	原町区地域協議会	現在、市で推進している移住施策との連携を図ってはどうか。	意見	説明	ご意見のとおり、市における既存施策との連携は相互の事業効果を高める上で重要であると認識しております。本計画素案の策定にあたっては、関係部署や関係事業者へのヒアリングを行い、その内容を反映しながら検討を進めてきたところであり、引き続き移住施策との連携を図ってまいります。
定住・移住施策	5	パブリックコメント	移住検討者向けの取組として、区内の空き家及び空き地のパンフレット等の情報を一括で設置してはどうか。	意見	説明	ご提案いただいた「区内の空き家・空き地情報の設置」につきましては、移住促進の取組において有効な手段であると考えております。 市では、令和４年度に空き家と住まいの相談窓口として「ミライエ」を開設し、市民や移住希望者から住宅に関する相談を受けながら、空き家・空き地バンクも運営しています。これまでミライエによる賃貸・売買の成約件数は令和８年２月末までで２４２件（累計）と、県内屈指の実績を誇っております。このような実績と経験を有する「ミライエ」とも連携しながら、移住体験ゾーンの利用者や駅舎を訪れた移住検討者の方々が、住まいに関する情報を幅広く収集でき、移住への後押しとなる地域で暮らすイメージを喚起ことができる取組を検討してまいります。
駅舎の利活用・交流促進	6	パブリックコメント	東日本大震災後、福島県内の常磐線沿線駅では往来が乏しくなり、南相馬市だけでなく広野町など沿線市町村では、駅を人が集う賑わい創出の拠点として活用することを検討しています［「福島民報」2026年（令和8年）2月18日、論説参照］。自分も鹿島駅舎を「鹿島の魅力を感じられる場」として整備することに賛成で、まちづくりにつながっていくことに期待しています。	意見	説明	温かい励ましをいただき、心より感謝申し上げます。 東日本大震災後、沿線自治体において駅の役割が見直される中、本市において鹿島駅を「鹿島の魅力を見つめなおす場」としていくことは、まちづくりを進める上で意義を持つものと考えております。 本事業を通して、現在お住まいの皆様が「住み続けたい」と感じ、また地域外の方々からも「住んでみたい」と思っていただけるような、活気ある環境づくりを進めてまいります。お寄せいただいたご期待に沿えるような施設整備に努めてまいります。
駅舎の利活用・交流促進	7	パブリックコメント	120年以上の歴史ある駅舎を耐震改修し新たな発想で利活用できることを、住民の一人としてうれしく思います。古くなったから、新しくする考え方ではなく、歴史を大切にする想い、今有る物を大切にする考え方は愛着につながる要因になると思います。この事業を通し、地域交流への新しい一つの出発点になって欲しいと願います。そのために交流の場として持続していくためには、面白そうだと思える情報発信と新しい発想での仕組みづくりが重要だと考えます。	意見	説明	この度は、本事業に期待の声をいただきまして、有難うございます。大変心強く、励みになります。 本事業では、長年、地域の皆様に親しまれてきた鹿島駅舎だからこそ、その歴史的な価値を活かした改修を行うことで、地域への愛着をさらに育む場に出来るのではないかと考えております。 また、新たな交流の場として持続させていくために、まずは地域住民の皆様が施設を利用したいと思える場づくりが重要だと認識しており、整備計画素案の検討において、市民ワークショップや地域住民及び地域で活動する団体の皆さまにヒアリングを行い、その内容を反映しております。今後の設計業務においても、引き続きヒアリングを行い、地域住民の皆様が利用したいと思える場づくりを行っていく考えです。人の往来が多い駅舎において、市民の活動を実施すること、取組の発表や展示を行うことが情報発信となり、交流に発展していくものだと考えていることから、是非、活動の場としてご活用いただきますようお願いいたします。
高校生・若者の居場所づくり	8	パブリックコメント	鹿島駅駅舎利活用施設整備計画素案【全体版】15ページの「地域への愛着醸成」について、卵が先か…のようなところもありますが、私は、鹿島の現状でもっての愛着ファーストは難しいと思います。例えば、生活するのに居心地が良かったり、使い勝手のいいものがあったり…というのがまず先にきて、ルーティン化した先に「なんかいいよね」の気持ちが生まれ、愛着につながるのではと思います。駅舎に関してもそのような場所として生まれ変わるのであればとてもありがたいと思います。	意見	説明	市といたしましても、ご意見のとおり、改修後の施設が地域住民の皆様にとって日常の一部となるような場づくりを行い、そこで多様な方々と関りながら過ごした時間が、利用者のなかで自然と地域への想いや愛着へ変わっていくものと考えております。 ご期待に応えられるよう、引き続き検討してまいります。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
高校生・若者の居場所づくり	9	パブリックコメント	鹿島の高校生について、以下の現状を抱えていると思います。 ・電車時間による制約のため、キリが悪くても途中で中断して帰宅しなければならない。 ・学校では遅くまで勉強できない。１８時過ぎには下校を促されるため、受験期だと、放課後から２０時ごろまで静かなところで勉強したがる生徒が多い。 ・サードプレイス的なものがない。マクドナルド、ファミレス、図書館がある相馬・原町の生徒でさえも、落ち着いて何かができる場、行き場（＝サードプレイス）が、自宅・学校しかないという不足感はある。 自宅だと誘惑や惰性に負けてしまって手につかない、というのは大人でも経験があると思います。「違う自分になって時間を過ごせる」サードプレイスがあるのは、学生たちの学習や、広く今後の生活の仕方にとって意味のあることだと思います。 「鹿島に、集中できるちょっといい場所あるんだよ」というのが口コミで広がったりすると（高校生のネットワークはすごいです）、大きな数ではないかもしれませんが、外からも人が集まるきっかけになると思います。 私見ですが、例えば、「ただ高校生が集まって勉強している」というのはそれだけでは経済効果などないかもしれませんが、それまでひとけのなかった場所に、数人でも人間が集まって一定の時間を過ごしている、という場面が発生するだけで、活気は生まれると思います。	意見	説明	施設内の交流ゾーンは、電車の待ち時間を過ごすだけでなく、高校生が学習や読書、あるいは自分たちの活動に集中して取り組める場にしたいと考えております。ご意見のとおり、自宅や学校とは異なる、高校生が日常的に利用する駅に「サードプレイス（第3の居場所）」があることは、若者の意欲向上や豊かな生活につながる大切な要素であると考えます。 若者が駅舎に集い、一定の時間を過ごすことが駅に新たな活気をもたらすという視点は重要であると認識しております。「居心地の良い場所」と感じていただける環境づくりを行い、日常的に足を運びたくなるような「居場所」としての利用促進につなげていく考えです。
高校生・若者の居場所づくり	10	パブリックコメント	相双地区には大学や専門学校等の上級学校の数が非常に限られているため、19～22(24)才の人間が地元にいないのは当然というか自然なことです。 特に鹿島は、高校進学時から「他市・他区へ通う」という感覚があるので、「町を出てどこかへ行く」というのは当たり前のハードルの低いことだと思います。 最近は「総合的な探求の時間」という授業ができて、「地域の課題解決」というような地域に目を向けることがあると聞きます。そこで出てきた課題を解決するために、さらに上級学校で知識やスキルを得たい、という流れが生まれているようです。相馬のあたりの高校生は進学となると仙台方面が多いようで、自宅から通学できる範囲なので、節約の意味もあってほぼ電車通学を選ぶようです。この地域の進学に関心が高い高校でも、大まかに仙台か関東圏の二択のような感じがあります。ただ意外なのは、卒業後Ｕターンの生徒が一定数いるようです。キラキラした仙台や都会にそのままいたがると思いましたが、そこはうれしい誤算だと感じています（Ｕターン組の多くが南相馬・相馬の市役所でお世話になっているようです。民間でももっと自己実現できる場があるとよいとは思います）。	意見	説明	進学を機に地域外で広い知見を得ることは、若者の将来にとって非常に有意義なことと考えております。ご意見いただいた「一度外に出た後に戻ってくる若者が一定数いる」という事実は、本市の持続可能なまちづくりを推進する上で重要な活力であり、そうした方々が帰郷した際に、そのスキルや地域への想いを活かせる環境を整えることも市の役割であると認識しております。 本事業では、高校生の皆さんが日々の登下校で利用する駅舎において、鹿島の「まち」「ひと」「自然」という魅力を再認識できる取組を行うとともに、”地域活動が活発に行われている場所”と認識できるような場づくりを行う考えです。そして、卒業後に地元を離れた後も”いつかあの場所に戻って活動したい”と思い出してもらえるような、を目指してまいります。
高校生・若者の居場所づくり	11	パブリックコメント	鹿島駅を通常利用する絶対多数を占める高校生を中心としたコミュニティ創りのための施策の推進です。鹿島駅を利用する高校生が在学する学校、および南相馬市教育委員会、ＪＲ東日本原ノ町駅、市行政が一体となって、高校生サポーター制度を設立してはいかがでしょうか。主な活動は、　①「鹿島駅をきれいに利用する」ための横断幕作成及び駅ホーム等掲出　②「年２回　駅前駅中清掃」を高校生サポーターにより実施　③「年１回　駅前地域感謝祭」を鹿島内の小・中学生徒や高校生サポーター等を中心に開催　④地元小・中学校美術部等に属する児童生徒及び通学する高校生サポーターによる「鹿島区内看板マップの作製」と駅前掲出　以上の事柄について、地元の児童・生徒に参画していただくことで、鹿島駅をより身近なものに感じていただくとともに、鹿島区にもっと興味を抱いていただく機会になるものと考えます。また、鹿島を訪れた方が地域内の訪問したい目的地を探し出すうえで、大いに助かるツールとなることが想定されます。	意見	説明	ご提案いただいた取組は、駅周辺の環境維持だけでなく、次代を担う若者が主体的に地域と関わり、地域の魅力の再発見に繋がる契機となり、「鹿島で育まれた多様な魅力を通じた交流により、郷土への愛着を醸成する場づくり」を目的としている本事業において大変意義深いものと受け止めております。改修後の管理運営においてどのような活動が可能か、今後も関係各所との対話において検討していきたいと考えており、ご意見いただいた活動についても参考とさせていただきます。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
駅舎の利活用・交流促進	12	パブリックコメント	鹿島の歴史を伝承するコーナーの駅内設置と街歩き施策推進について、ご提案させていただきます。鹿島区内には多くの古墳群がありますが、これらを目的に訪ねる方は少ない気がします。これらの紹介案内板やリーフレットが目に見える形で多くの人が集うところに掲示や閲覧されていないことも、その一因かと考えます。従って、待合室の中に「真野古墳群紹介コーナー」を設置してはいかがでしょうか。また、「真野古墳群を訪ねるウォーク」を企画し、現地を見て歴史を知る機会をつくることも鹿島をより知っていただけることに繋がるものと考えます。 　これらの施策について、一つでもご理解をいただき実現化していただくことで、鉄道を利用しない地域の皆さまにも、気にかかる駅として足を運んでいただけることが叶い、鹿島区ならではのコミュニティーが創出されるものと信じております。是非、実現に向け何卒よろしくお願いいたします。以上、ご提案申し上げます。	意見	説明	ご意見のとおり、真野古墳群をはじめ、この地域には多くの地域資源があるにもかかわらず、地元の方々もその価値を認識していないものが数多く存在していると考えております。本事業では、このような地域資源を再認識できる場として駅舎を活用していきたい考えです。 また、鹿島の地域資源を実際に訪ねる取組については、鹿島駅駅舎利活用施設整備計画素案【全体版】の42ページに掲げている「まち歩きツアー」での企画・実施を検討しております。 ご提案いただいた内容についても、地域の皆様や来訪者が鹿島の歴史・文化を育んできた地域資源の魅力を再認識する機会となることから、是非そのような活動の場としてご活用いただければと思います。
駅舎の利活用・交流促進	13	小高区地域協議会	鹿島区には相馬支援学校があり、生徒達は芸術等において素晴らしい才能を持っている。その作品を駅舎内に展示することで、鉄道利用者や地域住民など、これまでになかった交流を生むことになるのではないか。	意見	説明	相馬支援学校の生徒が持つ豊かな感性で生み出される素晴らしい作品の数々は、鹿島区の魅力を形づくる大切な要素の一つであると深く認識しております。 本計画素案の作成にあたっては、学校関係者へのヒアリングを実施し、ご提案いただいた駅舎内での作品展示など、駅舎内における連携の可能性について協議を進めているところです。具体的な展示方法や連携イベントのあり方などについて、学校側とさらに調整を図っていく考えです。
駅舎の利活用・交流促進	14	パブリックコメント	道の駅という言葉がおなじみですが、この道の駅という言葉をお借りしまして、地産地消は勿論ですが、一角に趣味のコーナーを設けて、皆さんに作品をお願いしたら如何ですか。器用な方達が沢山おられるかと思います。友人とのコミュニケーションも取れて、日々楽しい時間を作れるかと思います。是非、このコーナーを考えてみては如何ですか。ますます栄えて大事な駅舎であって欲しいものです。節に願う一市民の1人です。そこで見たい、買いたい、寄ってみたい。如何ですか。	質問	説明	本施設は、鹿島区の魅力である「地域住民による多様な活動」を行う場として積極的に活用していきたいと考えています。このような活動において制作された作品等を人の往来が盛んな駅舎内に展示することで、多くの方々の目に触れる機会を創出し、活動の認知をきっかけとした新たな参加者や交流が生まれることを目指しています。こういった場づくりを通して、地域住民を中心とした多くの方々が気軽に立寄りたくなる場所につなげていく考えであります。
駅舎の利活用・交流促進	15	パブリックコメント	鹿島区北海老にある寶蔵寺は、歴史も長く紅葉が素晴らしく、寶蔵寺のようなお寺はなかなかない。また、鹿島区市街地にある、しおのたい焼きや若松味噌醤油店の甘酒も美味しく、真野川河川敷の桜も見ごたえがある。 一方で、地元の人たちは、昔から身近にあることで普通のことだと思っていて、その素晴らしさに気づいていない。このような素晴らしいものを知ってもらうため、観光マップを駅舎内に設置してみてはどうか。	意見	説明	寶蔵寺の歴史ある佇まいや四季折々の景観、また地域で長く愛されている食文化や自然環境は、頂いたご意見のとおり、鹿島区の地域資源であると認識しております。市としては、本事業を機に駅舎を「鹿島の魅力を見つめ直す場」としたいと考えております。ご提案のありました「観光マップの設置」は、鉄道利用者や鹿島を訪れた方々に、地域の魅力を届ける手段であると認識しております。 加えて、本事業では駅舎利用者が「実際にその場所へ行ってみたい」という動機付けを行うことが重要であると捉えております。そのため、施設において四季折々の地域資源の魅力が感じられる写真を掲示するなど「実際に見に行きたい」「現場で体感したい」という意欲を喚起させたい考えです。 このように、施設そのものが地域の魅力を体現する場となることで、施設利用者が鹿島の魅力への関心を高めることにつなげ、実際に地域の名所へ足を運んでいただけるような仕組みづくりを行っていきたい考えです。
駅舎の利活用・交流促進	16	パブリックコメント	毎日を駅舎を眺めながら通勤しておりますため、他の駅舎よりも落ち着いた風貌が大好きなのですが、連絡橋の外観がもっときれいになってほしい願いがあります。また、連絡橋の中側はポスター掲示を行い、情報交換の場に出来るのではないでしょうか。サーフィン大会等のイベントの周知を連絡橋の内外で行うことで、集客をはじめとした電車の利用に貢献出来るのではないかと考えます。	意見	説明	ホーム間をつなぐ連絡橋につきましては、本事業による改修の範囲外となっており、連絡橋内部での掲示もJR東日本の所管であることからご提案頂いた内容はJR東日本へ情報提供いたします。また、ご提案いただいた「情報交換の場」としての活用は駅舎内でも積極的に行いたいと考えており、改修後の駅舎内の待合ゾーンや交流ゾーンにおいて、地域のイベント情報や活動を効果的に発信できるスペースを設ける計画です。
駅舎の利活用・交流促進	17	パブリックコメント	駅全体に花を植え、憩うことが出来る場になると嬉しいです。駅ホーム東側の隣地は花植えに借用可能です。	意見	説明	駅前広場の既存花壇につきましては、現在、地元の関連団体の皆様のご協力により維持管理されております。改修後の施設等の管理についても、関係団体等と協議を重ねながら、憩いの場としての環境づくりに努めてまいります。 この度、駅ホーム東側隣地の借用に関するお申し出をいただき、御礼申し上げます。ご提案をいただいた内容については、駅周辺の環境向上を検討していく上で参考にさせていただきます。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
駅舎の利活用・交流促進	18	パブリックコメント	駅舎内において飲み物を提供し、集える場所として活用してはいかがでしょうか。無料とはいきませんが、安価で楽しめる場所にしたいです。地域の皆さんの憩いの場所になれたら嬉しいです。	意見	説明	施設内では、地域の事業者や新たな活動に挑戦する方々が飲食物等の販売を行うチャレンジショップ機能や自動販売機の設置も想定しており、飲食物等の販売ができる場としての活用も行っていく考えです。 市といたしましては、この場を実際に活用し、飲み物等の提供やイベント等の担い手となる団体や個人の皆さまを募集する仕組みについて、今後、具体的に検討してまいりたいと考えております。その際、特定の個人や団体に限定するのではなく、より多様な方々がそれぞれの得意分野やアイディアを活かし参加できるような、運営のあり方を検討していきたいと考えております。 具体的な募集内容が決まり次第周知いたしますので、積極的なご参画をお待ちしております。
駅舎の利活用・交流促進	19	パブリックコメント	駅前広場では週に1回程度トラック市を開催したいです。地域で生産された野菜（キズ、端物、余っているもの）を軽トラック2台程度を活用して販売したいです。農家さんの代わりに売り子を我々が請け負うかたちで行います。野菜だけでなく、フリーマーケット等も企画します。	意見	説明	地域で生産された農産物や資源を活用し、市民の皆様が主体となって魅力を発信する取組は、鹿島の魅力を知ってもらう上で、非常に有効な手段であると考えております。 ご提案いただいた「トラック市」のような活動は、駅周辺の活気を生み出すとともに、生産者と消費者がつながる貴重な機会となるため、市としても実現に向けて前向きに検討していきたい考えです。 なお、駅前広場はJR東日本の所有となっているため、実際に車両を配置しての定期的な販売活動は、JR東日本との調整が必要となりますが、改修後の駅舎や駅前広場が皆様のアイデアを形にできる場となるよう、実施に向けた諸条件の整理や関係機関との調整を進めてまいります。
駅舎の利活用・交流促進	20	パブリックコメント	駅舎北側の事務所は貸し台所にはできないでしょうか。特産物の開発に必要なスペースは個々の事業所ではなかなか提供できません。南相馬市鹿島区の特産品誕生に役立ててほしい願いです。	意見	説明	交流ゾーンには流し場（シンク）と、可動式のIHクッキングヒーターを設ける予定であり、地域活動での軽微な調理や、食を通じたワークショップ等での活用を想定しています。ご提案いただいた専門的な「特産品開発」につきましては、活用される皆様の目的や必要となる設備の規模も様々であると想定されます。本事業においては、まずは幅広い市民の皆様が日常的に集い、交流できる場としての機能を優先して整備を進める考えです。
駅舎の利活用・交流促進	21	パブリックコメント	人を呼ぶ仕掛けとしてのイベントについて、味噌づくりや絵手紙など、地元の方々のワークショップは素晴らしいと思います。 鹿島独自の既存のイベント（文化歴史含む）はそのまま大事にしてもらう一方で、大きく人を呼ぶなら、町の中だけの力では厳しいと思います。外部とタイアップした大きな行事（花火大会や音楽フェスなどでも）が年に１回でもあるだけで、知名度アップや、町の人たちのホスピタリティ醸成などにもつながると思います。	意見	説明	本事業においては、大規模な集客ではなく、「地域住民の皆様が地元の魅力を再認識し、郷土への愛着を深め、定住につなげること」に主眼を置いております。本事業での取組として例示している「味噌づくり」や「絵手紙づくり」のワークショップなどはその実現に向けて行う、鹿島の「まち」「ひと」「自然」といった魅力を再認識することにつなげていく考えです。この取組は地域らしさが詰まった他にはない特色を持つ場を創出し、結果として地域外の方々にも「訪れてみたい」と感じていただける場づくりにもつながると考えております。市では現在、南相馬鹿島サービスエリア周辺開発事業を進めており、このサービスエリアが持つ広域からの集客力を活かし、地域外からの来訪者に鹿島を知ってもらうことにつなげていく考えです。
駅舎の利活用・交流促進	22	パブリックコメント	以下の内容を提案する。 ・誰でもくつろげる談話スペースを設ける ・朝7時から夕方6時頃までカフェを開設する。料金はコーヒーならば一杯150円位。管理人は1人常駐する。（シルバー人材の活用など） ・地域住民の趣味の展示スペースを設ける ・小さな子どもから高校生、地域のお年寄りまで気軽に立ち寄れる居場所作りをお願いしたい。 ・トイレはいつもピカピカ、水洗トイレ、洋式で、地域に誇れるきれいなトイレをお願いしたい。トイレは1番。	意見	説明	交流ゾーンにはフリースペースを設け、世代を問わず施設を訪れた方々が談話や休憩等で気軽に利用できる場づくりを行います。また、チャレンジショップを設置する計画であり、地域の事業者や新たな出店を検討する多様な方々による飲食物等の販売を想定しております。 待合ゾーン及び交流ゾーンには展示スペースを複数設け、児童・生徒をはじめ、地域の方々の活動で制作された作品を展示し、活動や取組を広く発信することにより、地域とつながるきっかけを創出します。 トイレについては、既存の屋外トイレ（水洗・洋式）を活用する計画です。現在は週2回程度の定期清掃を行っておりますが、日頃から利用者の皆さまのご協力により、清潔な環境が維持されております。駅舎改修後も定期的な清掃を行い、駅利用者が快適に利用出来るよう努めてまいります。また、駅舎の下屋（屋根）を既存の屋外トイレまで延長する整備を行うことで、雨天時などの天候に左右されず円滑に移動できる環境を整え、利用者の利便性を高めていく考えです。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
駅舎の利活用・交流促進	23	パブリックコメント	ワークショップや展示コーナーだけでは集客を見込むのは難しく、飲食スペースの充実が利用価値や活性化に最も繋がると思います。駅である事から、飲酒の出来るお店の併設や、コンビニや衣料品店などの駅前開発を行う事で、近隣住民だけでなく、遠方や県外からのお客様からも関心を寄せて頂けるスペースになると思います。駅舎だけの魅力ではなく、駅前通りを始めとする鹿島全体の発展の一つのしての観点での整備を希望します。 駅周辺にコインパーキング式の駐車場を完備する等で、野馬追いや駅舎イベントで集客が見込まれると思います。	意見	説明	本事業では、単に施設の集客を増やすことではなく、地域住民の皆さまが地元への愛着を育む場とするために、地域住民の施設の利活用の促進を目指しています。そのため、現駅舎を保存活用し、鉄道利用者・地域住民・来訪者が日常的に利用できる環境を整えることで、多様な方々が気軽に集まり、継続的に利用する場としたい考えです。加えて、鹿島の魅力である「まち」「ひと」「自然」が随所に息づく場とすることで、地域外からの来訪意欲を喚起したいと考えています。 ご提案いただいた飲食機能等の充実については、施設利用者が滞在しやすく、利便性を高める機能のひとつと認識しております。本事業においては、「チャレンジショップ」を設ける予定であり、地域の事業者や新たな活動に挑戦する方々がこのスペースにて飲食物等の販売を行うことや、軽食などを購入できるような自動販売機の設置も検討しております。このような取組により、地域内外へ鹿島の魅力を発信する場としても活用していく考えです。 また、「鹿島全体の発展」という視点については市としても重要であると捉えております。地域の魅力や地域内で行われている活動を駅舎に集め、鹿島の魅力として発信することで興味・関心を持った駅舎利用者のまちなかへの回遊を促します。 駐車場の確保については、駅前広場南側の既存駐車場の一部を活用することについて管理者と協議を行っております。イベント等の実施による一時的に利用者の増加について、駅舎周辺の既存駐車場管理者と駐車区画の確保に向けた調整を図っていく考えです。
施設計画	24	パブリックコメント	駅舎中央付近（現公衆電話付近からホーム側出窓にかけて）を通路とし、改修後の平面計画において「収納」とされている箇所を待合ゾーンにしてはどうか。通路と通路南側の駅舎内を交流ゾーンのような使い方が出来ると、より一体的な空間利用が叶い、空間活用における自由度があがるのではないか。また、待合ゾーンと交流ゾーンの境界はガラス等の透過性のある素材で仕切ることで、通行者が交流ゾーン内の様子を容易に確認することが出来、施設利用を促進することにつながるのではないか。	意見	説明	主に鉄道利用者が利用する待合ゾーンは、現駅舎の構造等を活かすことや鉄道利用者の動線を考慮し、計画で示している既存の位置が適しているものと考えます。 市民交流ゾーン（フリースペース等）については、平日・休日を問わず、実施される取組の内容や用途に合わせてテーブルや仕切り等の配置を変化させ、一体的な活用ができるよう計画を進めております。 ご意見のとおり、待合ゾーンと交流ゾーンの境界については、鉄道利用者が交流ゾーンの様子を確認できることが利用促進につながるものと市としても考えております。そのため、境界には透過性のある素材を採用し、高校生を中心とする鉄道利用者が心理的に入りやすさを感じていただける環境を整える考えです。また、このように中の様子が見えることは、日常的に交流ゾーンの活動の様子を感じ取り、行われている活動への興味関心を持つきっかけを創出し、実際の活動への参加を促すものと考えます。こうした関わりを通じて生まれる多世代との交流から地元への愛着を醸成することにつなげていく考えです。
施設計画	25	パブリックコメント	「待合ゾーン」の自習ブース設置は、出入口すぐ脇という配置からあまりよくないと思います。人の出入りでの落ち着かなさ、寒暖など。新聞を読むくらいにはいいかもしれません。 学生に望まれる自習スペースは「邪魔されずに集中したい」というのが最優先。 原町駅前の図書館との差別化を図り、「友だちと話しながらでも」というのをメリットにする意図があるのかもしれませんが、それでは「自習スペース」ではなく、「談話スペース」ということになるのかもしれません。やや中途半端な気がします。	意見	説明	本事業では、交流ゾーンが閉館する夜間や早朝など、どの時間帯でも自習等のニーズに対応できるよう、24時間開放予定の待合ゾーンにも自習スペースを配置する計画としております。 ご意見いただいた「人の出入りによる落ち着かなさ」や「寒暖の影響」は、学習に集中する上で解決すべき課題であると受け止め、今後の詳細な設計段階においての参考にさせていただきます。
施設計画	26	パブリックコメント	改修後の平面計画における交流ゾーンの出入口付近に、登校時の集合場所・下校時の送迎待ちの場所等、小学生の居場所を設けてはどうか。	意見	説明	交流ゾーンについては、子どもから高齢者まで幅広い世代が日常的に安心して過ごせる居場所として活用したいと考えております。 本計画においては、交流ゾーンの開口部を大きく設け、外からの視認性を大幅に向上させることより、屋内の様子が屋外から適度に見守られる環境となり、小学生が保護者を待つ間も安心して過ごせる空間を整えてまいります。 交流ゾーンは、オープンスペースとして整備し、用途を限定しないことで、小学生が宿題をしたり友だちと会話したりする傍らで、他の世代の方々も思い思いに過ごせる場とする考えです。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
駅舎周辺の考え方	27	パブリックコメント	匿名で大変失礼と思いますが、苦言、苦情等申し上げ改善等を望んでいます。 本件については先にアンケート等も実施しているハズです。その際もお伝えしているところです。利用者（JR）があっての駅舎であり、現状把握しているのか疑う次第です。出来ることへの改善が見当たらないので再度の問合せをするものです。 ・夜間帰宅で駐輪場に停めていた自転車が無くなっており、荷台に鍵等して結束していた荷物と共に行方不明で何度となく警察へも届けるも埒が明かない。日中ボランティアの方々が見回りをしていると聞きますが効果が見えない。 ・現在、無人ということであっても管理者はいると思われます。状況等は承知しているはずです。一時的に対策負担経費があっても少額で済むはず。（ロッカー、防犯カメラ等は必須です） 一部の心無い人たちの行為ですが、鉄道利用者の安全・安心を優先する計画を進められることを望みます。出来る改善をお願いいたします。	意見	説明	本計画では、老朽化した駅舎の改修、駅前広場のロータリー化による歩車動線の整理、駅舎利用者用の駐車場確保といった施設面での整備を中心に検討を進めてまいりました。 しかし、ご意見頂いたとおり、駐輪場も一体の施設として利用されるものであり、駐輪場の防犯性を高めることは駅利用者の安全・安心につながる重要な視点であります。このことから、頂いたご意見を踏まえ、令和7年度中に防犯カメラの設置を行う予定です。また、見回りボランティアとの連携強化や掲示等による注意喚起も行うことで、駅を利用する皆様が安心して利用できる環境づくりに取り組んでまいります。
駅舎周辺の考え方	28	鹿島区地域協議会	駅舎とトイレの間の空間の活用について考えはあるか。	質問	説明	駅前広場でイベントを行う際のスペースとしての活用を想定しています。
駅舎周辺の考え方	29	原町区地域協議会	駅舎改修とともに、駅前広場の鉄道利用者の送迎車の利便性や安全性に配慮する必要があると考える。	意見	説明	送迎車両の利便性と安全性の確保は、駅前広場整備における重要な要素であると考えております。本事業では、歩行者と車両の動線を明確に分離した上で、駅前広場をロータリー化し、車両同士が交錯することのない一方通行の安全な動線を確保する計画です。 ロータリー内には新たに「乗降スペース」を設け、送迎時の短時間停車に対応することを計画しています。また、停車時間が長くなる場合は、隣接箇所に確保を検討している駅舎利用者用駐車場の利用を促すなど、駅前広場内の混雑緩和と利便性向上の両立を図る考えです。
駅舎周辺の考え方	30	原町区地域協議会	施設の供用開始後は鉄道利用者に加えて地域住民等の駅舎利用者が増えることが想定される。駅舎の利活用促進においては、駐車場の確保が重要だと考える。	意見	説明	市としても、駅前広場南側の既存駐車場の一部を駅舎利用者用駐車場としての活用することを検討しており、引き続き、管理者との協議を進めてまいります。また、週末やイベント実施時など、駅舎利用者の増加が見込まれる場合は、駅周辺の既存駐車場管理者と連携し、一時的な駐車場の確保に向け、関係者と調整を図る考えです。
駅舎周辺の考え方	31	パブリックコメント	駅前のロータリー化構想について、ご提案させていただきます。現行の駅前広場は可視化できる駐車線もなく、それぞれの車の着順で場所取りを行い、列車到着を待っている状態であり、時間帯によっては南側月極め駐車場の空きスペースに車を停め、通勤で駐車場を契約利用されている利用者にも迷惑をかけている実態にあります。しかし、ロータリー化しても迎えるために入場する車の数が減少することはないのではないかと考えます。ロータリー化により、進行進出方向が一方方向となり事故発生リスクを軽減でいる可能性は高まりますが、迎えの車で混み合う時間帯は、まさに誘導担当を配置する等の措置は必要かと考えます。従って、ロータリー化構想とあわせて実施いただきたいことは、高校生を対象とした駅と乗車ポイントを設定した停車場間を運行する送迎スクールバスの導入です。これにより、高校生を駅まで送迎していた家族の負担が軽減され、且つ駅前広場の混雑も解消されるものと推察します。	意見	説明	現在の駅前広場における混雑状況や、周辺駐車場への影響については、市としても大きな課題であると認識しております。本計画で進めている「駅前広場のロータリー化」は、歩行者と車両の動線を明確に分離し、一方通行化することにより、安全性の確保を図るものです。ご提案いただいた「送迎スクールバスの導入」につきましては、送迎車両数の抑制による混雑緩和や送迎をする家族の負担緩和に繋がる方策であると考えます。一方で、バスの運行にあたっては、運転手の確保や継続的な運行費用の負担など、解決すべき課題が多くございます。現時点での導入は困難な状況ではございますが、混雑対策の一つとしての貴重なご示唆として承らせていただきます。今回の整備計画において、まずは送迎車両がスムーズに乗降できるスペースを確保し、適切な車両誘導ができる構造への改修を優先して進めてまいります。
管理・運営方針	32	パブリックコメント	新駅舎について、「常に誰かがいる」ということは施設として大事なことだと思います。この計画を知るまでは、個人的に、カフェ（チェーン店ではない）に改装して、鹿島の人たち全体のサードプレイスとして使えないかなと夢想していました。 箱ものにならないように計画を進めていただけると嬉しいです。欲をいえば、高校を持たない鹿島区の学生たちの場（遊びではなく学習の場として。いずれ帰ってきてくれる）もしっかり確保してほしいと思います。	意見	説明	市といたしましても、ご意見のとおり、施設利用者や管理者などが駅舎内に居ることは、利用者の安心に繋がるものと考えます。 鹿島区に高校がないからこそ、鹿島の高校生にとって通学で日常的に利用する駅舎を「居場所」とすることへの重要性を感じております。また、学習が出来る環境を整えることはもちろんですが、駅舎内で行われる地域住民の取組や地域の情報を見る・聞く・体験することにつながる場づくりを行うことで、将来、進学等で地元を離れても、結果として「また鹿島に帰ってきたい」と思えるような自然に愛着が醸成される場としていきたい考えです。

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
管理・運営方針	33	パブリックコメント	無人化となっている駅にコミュニティーを復活させる案につきましては、大変ありがたいことだと思います。その施策の推進と駅利用者の増加を目指すためにも、市行政機関の一部部署は、現行の鹿島駅に常駐することを一つ目に提案させていただきます。常駐することによる効果は、①常に「人」がいることにより、駅利用者に「安心」と「安全」を提供できる。このことにより、利用しやすい環境を創出することの可能性につながる。②防犯上の見張り番役代わりとして常駐することにより、施設内の平穏な秩序が維持継続できる。③一般的に観光客等が訪問した際、最初に立寄るのは駅や駅前案内所である傾向を踏まえれば、案内所代わりともなり着地街である鹿島に好印象を持っていただく絶好の機会となる。　以上のような効果がきたいできます。そのためにも、駅前広場駐車場を管理している「観光協会」が現商工会議所内から分離、移設常駐体制をとられてはいかがでしょうか。	意見	説明	ご意見をいただいた「安心・安全」「防犯」また、来訪者への「観光案内機能」といった要素は、改修後の施設の利用促進において、市としても大切であると認識しております。 現在、市が想定する管理運営については、施設供用開始時に会計年度任用職員として市が雇用する地域おこし協力隊員の配置に加え、地域住民・団体が活動を行うなどの施設利用を通して、多様な方々が日常的にそれぞれの形で施設運営に関わっていくといった持続的な関係性を作ることで、施設に人がいる状況を増やしていきたい考えです。 今後、地元関係団体等と連携しながら、地域住民が施設運営に参画するような管理運営のあり方を慎重に協議してまいります。ご提案いただきました「市行政機関の常駐」や「観光協会の移転・常駐」につきましては、今後の管理運営における協議において参考とさせていただきます。
管理・運営方針	34	鹿島区地域協議会	駅舎内に常に人がいることで、利用者が安心して施設を利用することにつながり、持続的な運営を促進することになると考える。住民を中心とした施設運営の協力チームを組成することが重要ではないか。	意見	説明	現在、鹿島駅においては、鹿島ボランティア連絡協議会や南相馬市青少年育成市民会議鹿島地区推進協議会の皆様のご協力により、駅舎利用者の皆様への挨拶や声掛けといった「見守り活動」をボランティアにて実施いただいております。こうした活動が駅舎利用者の安心感を支えているものと深く感謝しております。 本事業では、施設を高校生を中心とした鉄道利用者や地域住民の居場所とすることに加え、地域住民による日頃の多様な活動を行う場とする考えです。このような施設の利活用を通して、地域の多様な世代の方々が、日常的にそれぞれの形で施設運営に携わるといった関係性を作っていくことにより、施設の持続的な運営を実現したい考えです。ご提案いただいた「住民を中心とした施設運営の協力チーム」を一例として参考としながら検討していく考えです。是非、施設運営に携わる一員としてのご参加をお願いいたします。
管理・運営方針	35	鹿島区地域協議会	鹿島駅駅舎利活用施設整備計画素案【全体版】にも記載されているが、地域で活動する団体や個人等への活動状況等の聴き取りはどのような状況か。地域協議会委員はそれぞれ団体に属しているので、その団体内でのネットワークを使うと良いのではないか。	質問	説明	市としては、改修後の駅舎を「地域で活動している個人や団体」が活用できる場にしたいと考えており、そういった場としての取組や施設計画を検討するため、個人や団体にヒアリングを行っております。このヒアリングにおいては、各個人・団体の活動の把握に加えて、改修後の駅舎における具体的な活用イメージについても共有を図っております。ヒアリングでいただいた意見を施設計画に反映し、実際の活動に即した、利用しやすい環境を整えていく考えです。今後も、引き続きヒアリング行い、鹿島の魅力である活動が駅舎行われ、駅舎利用者がその魅力を再認識できる機会を創り、それらを通じた交流によって地域への愛着を醸成する場として活用していきます。 この度は心強いお言葉をいただき有難うございます。地域協議会委員の皆様にヒアリングをお願いするとともにお持ちのネットワークをお借りしていく考えです。
管理・運営方針	36	鹿島区地域協議会	持続的な施設運営を見据えると、鹿島に住んでいる人々が本事業に参画する意欲を持たなければ上手くいかないと考える。現時点での施設運営に対する市の考え方を伺う。	質問	説明	改修後の管理運営は、施設供用開始時は地域おこし協力隊員を雇用しながら市直営で行い、その後、指定管理者制度に移行することを想定しています。また、施設供用までの期間においては、地元関係団体を中心に協議を行い、施設を管理する受け皿団体の組成を行っていきたい考えです。 また、本事業では、施設を地域住民をはじめ、地域で活動する個人・団体が自身たちの活動を行う場とする考えであります。地域の方々が施設で活動を行い、活動を見た方々が参加したり自身の活動を行う場とするといった利活用の広がりによって、多様な方々がそれぞれの形で施設運営に関わるといった持続的な関係性を作っていく考えです。引き続き、地域で活動している個人や団体に対するヒアリングを継続し、より多くの地域住民の利用促進に向けた関係づくりを行っていく考えです。
管理・運営方針	37	原町区地域協議会	「郷土への愛着を醸成する」場づくりを行ううえで施設運営に地域住民が参画することが望ましいと考えるが、施設運営を地域おこし協力隊の直営として一任してしまう手法は事業の方向性としてそぐわないのではないか。	意見	整備計画に反映（修正・追記）	施設を供用開始した初期段階の施設運営については、会計年度任用職員フルタイムとして市が雇用する地域おこし協力隊員を想定しており、任期中に地元関係団体等を中心とした地域住民が施設運営に参画する体制づくりを行っていきたいと考えております。 市の直営であることが伝わりづらい表現であることから、整備計画素案の修正を行います。 【修正箇所】 「（10）運営体制」「③運営手法の検討」「運営手法案１　地域おこし協力隊制度の活用（直営）」という表記を、 「運営手法案１　市直営（地域おこし協力隊制度も活用）」に変更。（P46）

（令和８年3月27日（金）時点）

項目	No.		意見・質問		回答	
			内　容	区分	対応	市の考え方
事業計画	38	小高区地域協議会	財源はどのように考えているのか。	質問	説明	財源については、建設費（調査・設計監理費，工事費，備品購入費）の１／２を内閣府の地域未来交付金（旧第二世代交付金）を充当し、残り1/2を市の一般財源を想定しており、地域未来交付金については現在、申請作業を進めている状況です。
事業計画	39	小高区地域協議会	駅舎は老朽化しているようだが、現在の計画素案に明記されている建設費で計画している用途での利用が可能な状態になるのか。	質問	説明	計画素案で示している建設費は、耐震改修に必要な費用も含めて積算しており、記載している金額で計画で示した用途を安全にご利用いただける状態になるものと考えます。
事業計画	40	パブリックコメント	「鹿島駅舎利活用施設整備計画 素案」には事業スケジュールも示されていますが、スケジュールありきではなく、パブリックコメントを検討していただき、建築調査（屋根裏の建築部材の銘や棟札の有無を含む）文献調査を踏まえてのスケジュール策定をお願いします。	意見	説明	ご指摘いただいた点は、市としても大切に受け止めております。 鹿島駅舎の歴史的・文化的価値については、市としても深く認識しております。今後の設計業務においては、天井材や壁材をはじめとする部材の状況を丁寧に確認しながら、既存駅舎の意匠や素材等をできる限り把握・記録し、設計への反映や改修後の歴史情報の発信に活かしてまいります。 スケジュールへのご懸念は、駅舎をこれからも大切に守っていきたいというお気持ちから来るものと、受け止めております。一方で、老朽化や度重なる地震による損傷を踏まえると、毎日利用される高校生をはじめとする皆様の安全確保は、市として避けることのできない責務でもございます。どうかご理解いただけますと幸いです。 歴史的価値を守ることと、安全に使い続けられる駅舎にすること、この両方を大切にしながら、丁寧に事業を進めてまいります。引き続き、皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。
その他	41	原町区地域協議会	鹿島駅駅舎利活用施設整備計画素案【全体版】の13ページに鹿島駅駅舎利用者数が554人と記載されているが、どのように計測された数値で、全員が鉄道利用者なのか。	質問	説明	令和6年5月17日（金）の終日において、市職員が現地で実際に鹿島駅舎に出入りした人数を目視でカウントしたものです。この５５４人うち、９８．９％が鉄道利用者でありました。
その他	42	鹿島区地域協議会	駅舎内の現在使用されていないスペースを見ることが出来ると改修に関するイメージ喚起がしやすいと考える。外からでも良いので内部を見学することができると良いと考えるが、実現可能か。	質問	説明	保安上の理由により、常時、駅舎内部が見える状態にしておくことは出来ない状況です。改修前のイベント時などの短時間での見学については、現在の駅舎所有者であるJR東日本との調整を行っていく考えです。